

## 「消防防災ヘリコプターの安全性向上・充実強化に関する検討会」

## 報告書骨子

## 第1章

## 1 検討会設置の背景

## 2 アンケート及びヒアリングによる再徹底状況調査

- (1) 調査概要
- (2) 実施時期
- (3) 総論
- (4) 各論（アンケート結果）

## 第2章 安全性の向上

## 1 ヘリコプター動態管理システムの活用

通信費の負担は増えるが、システムの活用により、運航中の機体へ気象情報の提供や、捜索救難体制の迅速化等、組織としての安全管理体制の向上が期待できる。

## 2 ヒヤリ・ハット事例の共有

潜在危険予測に関するノウハウを伝承していくうえで非常に重要であるが、個々の団体では事例数も限られるため、有効策として、全国の事案を共有できる仕組みが考えられる。その際は、実効性を持たせるための取り組みも併せて求められる。

## 3 CRMの導入

組織へ浸透させるためには継続的な研修が必要になるということが前提となる。研修機会の設定や、受講対象者の選定について、今後さらに検討していく必要がある。

## 4 フライトレコーダー・ボイスレコーダーの積載

第3回検討会后、追記

## 5 アンケート及びヒアリングによる実態調査における課題について

- (1) 消防防災航空隊の組織、人員等
- (2) 航空センター及び道県庁主管課（消防本部主管課）の運航状況の把握
- (3) 出動決定権者の、各操縦士の技能管理
- (4) 運航管理要員の配置
- (5) ブリーフィングの実施
- (6) 死角部分の見張り
- (7) ヘリコプターの運航に関する規程・要綱・マニュアル等の整備
  - 点検・見直し
  - 意思決定プロセス
  - 出動可否の判断基準の数値化・明文化
  - 出場決定権者の着任後教育
  - 隊員降下中の見張り・ボイスプロシージャ
  - 山岳救助活動及び水難救助活動に特化したマニュアルの整備

## 第3章 消防防災航空体制の充実強化

### 1 消防防災ヘリコプターのニーズを踏まえた充実策

1 機体制の県については、耐空検査等の影響により、航空消防力の低下が懸念されることから、解消のための具体策について検討が必要となる。

各県2機体制については、安定した航空消防力が期待できるが、財政的な実現可能性や操縦士の養成・確保の課題についても配慮しなければならない。

### 2 相互応援体制の強化

一部の地域では、相互応援体制が十分とは言えず、航空消防力に空白が生じる可能性がある。

片務的な出動状況では不公平感が生じる恐れがあるが、航空消防力確保の見地からも、他都府県市間の相互応援体制は重要である。

### 3 関係機関との連携強化

良好な関係が築けている地域は多いが、各機関の調整が、双方の配慮によって行われている。協定や覚書により、明確な根拠を残すことで、より確実な協力体制の構築が期待できる。

## 第4章 消防防災ヘリコプターの操縦士の養成・確保

### 1 乗務要件・訓練プログラムの有効活用

第3回検討会后、追記

### 2 消防防災ヘリコプターの操縦士の養成・確保への具体的取り組み

#### (1) 2人操縦士体制の推進

第3回検討会后、追記

#### (2) 操縦士の増加策・財政支援策

第3回検討会后、追記

## 5章 まとめ

### 1 安全性向上策

#### (1) ヘリコプター動態管理システムの活用

#### (2) ヒヤリハット事例の共有体制の構築

#### (3) CRMの導入

#### (4) フライトレコーダー・ボイスレコーダーの積載

#### (5) アンケート及びヒアリングによる実態調査における課題への取り組み

- 航空隊基地への主管課責任職員の配置
- 運航状況把握の徹底
- 運航主体としての技能把握・管理
- 運航管理要員の配置
- 運航ブリーフィングの徹底
- 死角部分の見張りの徹底
- ヘリコプターの運航に関する規程・要綱・マニュアル等の整備
  - ・ 点検・見直しの検証
  - ・ 意思決定プロセスの明確化
  - ・ 出動可否の判断基準の数値化・明文化
  - ・ 出場決定権者の着任後教育策定
  - ・ 隊員降下中の見張り・ボイスプロシージャの明記
  - ・ 山岳救助活動及び水難救助活動に特化したマニュアルの整備

### 2 消防防災航空体制の充実強化

#### (1) 消防防災ヘリコプターのニーズを踏まえた充実策

人員確保の進捗とともに、財政的な実現可能性を併せて議論を進めて

いく必要があり、それぞれの地域における航空消防のニーズを見極めながら、随時検討していく必要がある。

**(2) 関係機関との連携強化**

消防庁と関係省庁と間で調整を行い、各消防防災航空隊と関係機関の連携が強化できるような環境を整備していく必要がある。

**(3) 相互応援体制の強化**

相互応援体制が手薄な地域については、消防庁から関係団体に対して相互応援体制の充実に向けた働きかけをしていく必要がある。

**3 消防防災ヘリコプター操縦士の養成・確保**

**(1) 訓練プログラム等の有効活用方法及び効果的な能力確認方法**

航空局とりまとめの「乗務要件・訓練プログラム」を有効活用し、技量ある操縦士の養成・確保に努めていく必要がある。

**(2) 「消防防災ヘリコプターの操縦士の養成・確保のあり方検討会」での課題・対応策**

○ **2人操縦士体制の推進**

第3回検討会后、追記

○ **操縦士の増加策・財政支援策**

第3回検討会后、追記